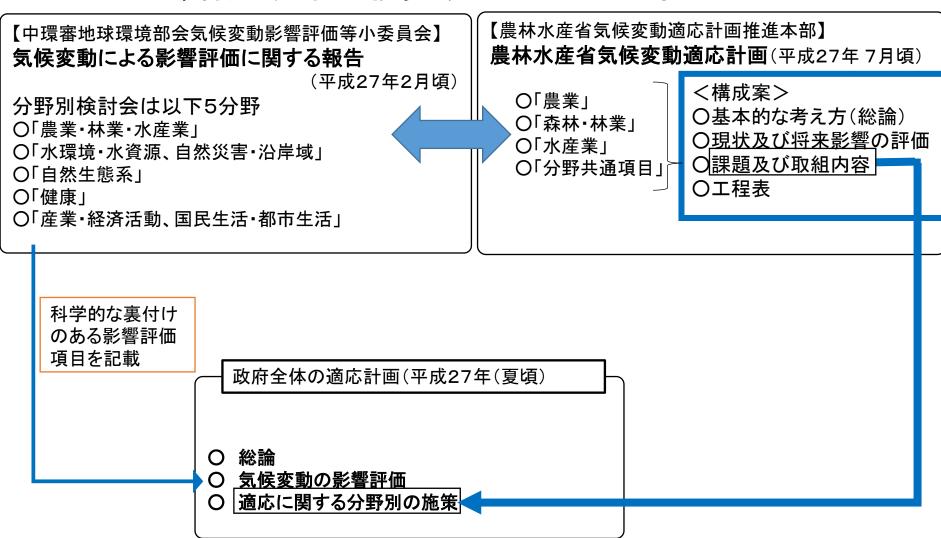
農林水産省気候変動適応計画の位置付け



(参考)生物多様性に関する戦略改定時の例

【国際的な動き】

COP10開催(平成22年10月)

○「名古屋議定書」、「戦略計画2011—2020愛知 目標」の採択等

【国内の法律制定】

- 〇生物多様性基本法(平成20年6月)
- 〇生物多様性地域連携促進法(平成22年12月)

【東日本大震災からの復興】

○生物多様性に配慮した復興・再生の推進

国内外の動きを踏まえて 戦略を改定 国内外の動きを踏まえて 戦略を改定

【農林水産省】

農林水産省生物多様性戦略(平成24年2月改定)

- 〇保護林の設定・管理、森林づくり
- ○生物多様性保全に効果の高い営農活動の推進
- ○漁業における資源管理の一層の推進
- 〇生きものマークの活用
- ○鳥獣被害防止対策の推進
- 〇エコツーリズムの推進
- 〇農林水産分野での遺伝資源の利用 ほか

生物多様性国家戦略(平成24年9月)

第1部 生物多様性の保全及び持続可能な利用に向けた戦略 第4章 生物多様性の保全及び持続可能な利用の基本方針

「第2節 基本戦略」において、農林水産省生物多様性戦略を踏まえて記述

第2部 愛知目標の達成に向けたロードマップ

農林水産省生物多様性戦略の内容を反映

第3部 生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する行動計画

政府全体の計画と農林水産省の計画の対象範囲(イメージ)

影響評価項目の検討(農林水産分野に関して)

適応計画策定

環境省(気候変動影響 評価等小委員会)による 影響評価

- 〇農業・林業・水産業
- •水稲
- •麦、大豆、飼料作物等
- •畜産
- •農業生産基盤
- 〇水環境·水資源、 自然災害·沿岸域
- 〇自然生態系
- 〇健康
- 〇産業·経済活動、 国民生活·都市生活

農林水産省気候変動 適応計画推進本部に おける検討課題

環境省の影響評価に記載しない行政的な課題、顕在化していない影響等についても検討する。

- 〇農業
- •水稲
- •麦類
- •豆類
- •工芸作物
- 花き
- 施設園芸
- *家畜
- •飼料作物
- •農業生産基盤
- 〇森林•林業
- 〇水産業
- 〇分野共通項目

農林水産省 気候変動適応計画

環境省の影響評価に記載 しない行政的な課題、顕在 化していない影響等に対す る適応策も盛り込む。

- 〇農業
- •水稲
- •麦類
- 豆類
- •工芸作物
- ·花き
- •施設園芸
- ·家畜
- •飼料作物
- -農業生産基盤
- 〇森林•林業
- 〇水産業
- 〇分野共通項目

政府全体の 適応計画

- 〇総論
- ○気候変動の影 響評価

○適応に関する 分野別の施策